

平成 29 年度 学校評価

	視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の多様なニーズに応える教育課程を編成する。 ②生徒の学習意欲や探究心の向上を図り、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力を養う授業の改善に取り組む。	①平成 30 年度入学生教育課程を周知し、教育課程変更への準備を進める。 ②思考力・判断力・表現力を養う授業研究を行う。	①学校案内や学校説明会配付書類等の改訂を行い、教科書選定等の校内準備を進める。 ②生徒同士が教えあい学び合う協働学習の効果的な授業への導入方法について研究する。	①教育課程変更による関係文書の改訂、周知及び校内準備が確実にできたか。 ②生徒間で学び合う関係を形成し、生徒が互いに考えながら学習を進めるとともに学習意欲の向上につながる授業実践ができたか。	①学校案内や学校説明会資料を改訂し、新しい教育課程の周知に努めた。校内準備も着実に進めることができた。 ②高大接続改革に関する研修会を実施し、大学入試改革に対応して「学び方」を変える必要があることを踏まえ、授業実践例を紹介し、授業での取り組みにつなげた。	①平成 30 年度入学生の選択科目説明会や 2・3 年時のクラス編制等の見直し、学年により教育課程が異なる状況への対応等が課題である。 ②早い段階から進路を意識させて学習意欲を喚起し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、思考力・判断力・表現力を養いながら学力の向上を図る手立てを考える必要がある。	①新しい教育課程を新入生やその保護者に対し、わかりやすい学校案内等を活用することで、生徒の様々なニーズに応えられる教育課程を積極的に周知した。授業実践にも取り組んでいる。 ②大学入試改革等も見据え、生徒同士の教え合いなど、思考力・判断力・表現力を養う授業実践を評価する。 ・早い段階から将来を見据えた主体的な学びの場が工夫されている。	①新しい教育課程について準備し、周知に努めた。学年により異なる教育課程にも点検確認をしながらしっかり対応する必要がある。 ②高大接続改革に関する研修については、教員への意識付けという点では成果があった。今後もこうした研修を続けながら、生徒の主体的な深い学びを定着させていく必要がある。	・組織的な校内研修を継続して進め、生徒が思考力・判断力・表現力を養うことができる方法を各教科・科目で追及していく。
2	生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立と教育相談体制の充実を図る。 ②生徒の主体的な活動を支援し、部活動の活性化を図る。	①SC・教育相談コーディネーターを中心に、教育相談体制の充実を図る。 ②加入率を上昇させる取組みを行う。	①必要に応じてケース会議等を開催し、生徒情報の共有を図る。 ②年度当初の勧誘活動を充実させるとともに、年度途中からの加入を働きかける取組みも行う。	①生徒や保護者への対応が適切に実施できたか。 ②部活動加入率が上昇したか。	①年間延べ 58 名が SC を利用し、教育相談体制の充実と生徒・保護者への適切な対応ができた。 ②1 年生の加入率は前年度より低下した。	①主訴別内容では、家族関係や精神・身体的問題が多く、相談内容をどのように生徒指導や支援に生かせるかが課題である。 ②部活動が低調な部活動への支援をどう行うかが課題である。	①外部機関とも連携し、今後も継続して相談体制の充実を図ることを願う。ケースによっては SSW と連携し、「訪問」を含めた支援体制の構築が必要である。 ②加入者が少ない部活動について再検討し、部活動の指導員等を採用するなどして、活性化を図る必要がある。加入率と入部している生徒の「満足度」も併せて考えたい。	①年間延べ 58 名が SC を利用し、交通安全指導、服装・頭髪指導だけでなく、きめ細かい教育相談支援体制を構築できた。さらなる継続的な指導と取組みが必要である。 ②現状を分析し、女子の部活動加入率を高め、当初の部活動加入率 60%達成に努める。	・家族関係や精神・身体的問題などの相談にも適切に対応できる相談支援体制を構築する。 ・活動が低調な部活動への支援を検討するとともに、生徒の安全対策を図る。
3	進路指導・支援	①キャリア教育・シチズンシップ教育の充実を図る。 ②個々の進路希望実現をきめ細かく支援する。	①地域と連携したシチズンシップ教育を実施する。 ②進路希望の実現に向けて、個別指導の充実を図る	①二宮町と連携し、消費者教育を行う。 ②面接指導を中心に指導する。	①事後アンケートにより意識が高まったか。 ②個別相談(面接指導)を活用した生徒が増えたか。	①平塚年金事務所に依頼して年金セミナーを実施した。 ②夏に 45 名、秋に 80 名の面接指導を行った。また、学習面での個別指導も行い、一般受検による合格へとつなげられた。	①インターンシップやセミナーを通して、「働く」という意識が高まった。今後はこのキャリア教育を幅広い進路指導に役立たせたい。 ②大学一般受検をする生徒へのサポートを充実させたい。	①二宮町との連携は今後も継続してほしい。 ・着実に実施されている。 ②今後も個別指導を充実させることを期待する。 ・着実に実施されている。 ・進学指導は「どこへ」ではなく「なぜそこへ」という指導がなされている。	①26 名の生徒がインターンシップに参加して単位認定を受け、「職業意識」を向上させた。またセミナー等を通して、「働く」という意識が高まった。 ②校外模擬試験をとおして、全国レベルでの自分の学力を知る機会となった。	・キャリア教育を幅広い進路指導に役立たせる。 ・大学一般受検をする生徒へのサポートを充実させる。 ・保護者対象進路ガイダンスを通じて生徒・保護者・学校が一体となった進路に関するスキルの向上をめざす。
4	地域等との協働	○地域との連携・協働の充実を図り、信頼される学校づくりを推進する。	○ボランティア活動の活動先を新たに開拓する。	○二宮町内を中心に各関係機関との連携を密にする。	○昨年度に比較して活動の機会を増やすことができたか。	○二宮町、二宮町社会福祉協議会、観光協会等に協力し、昨年度より多くのボランティア・地域交流	○ボランティア情報を生徒により広く周知し、生徒参加が増大するように工夫する。また部活動単位	○二宮町内でのボランティア活動や行事への積極的な参加を評価する。今後も継続してほしい。 ・演劇部の活動を通じて地	○校外でボランティアに参加する生徒が少しずつ増加していて、地域からも評価されている。	・ボランティア情報を生徒により広く周知し、生徒参加が増大するように工夫する。 ・学校運営協議会につい

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
						に参加した。	での参加を増加させる。	域の小学校との連携にも力を入れている。 ・シチズンシップ教育には重要な意味があり、多くの活動をしたのは評価する。	て検証するとともに、地域と職員の協働意識を高めていく。
5 学校管理 学校運営	<p>①事故・不祥事防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を一層向上させる。</p> <p>②防災教育と安全安心な学校づくりを推進する。</p>	<p>①成績処理、なかでも欠課時数に関わる処理を確実に遂行できる体制を作る。</p> <p>②防災体制を整備する。防災教育を推進し防災意識の向上に努める。保護者や地域(二宮町)と連携して災害図上訓練(DIG)を継続して実施する。</p> <p>・校内の快適な教育環境づくりを推進する。</p>	<p>①入力から点検までの業務の注意事項を整理し、研修会を通じて一人ひとりの意識とスキルの向上を図る。</p> <p>②学年進行で生徒の防災備品の充実をはかる。防災避難訓練・地区別集会の実施、および二宮町防災課と連携して保護者・生徒・教員が参加する災害図上訓練(DIG)を実施し防災意識を高める。二宮町総合防災訓練に会場として参加し地元自治会との連携をはかる。</p> <p>・日常的に校内美化に取り組み、また職員対象にISO研修を実施する。</p>	<p>①入力ミス等による修正件数が前年度に比較して50%減になったか。</p> <p>②DIGの事後アンケート等により、防災意識を高めることができたか。</p> <p>・環境美化について分別回収の推進やゴミの減量に取り組むことができたか。</p>	<p>①会議・研修会等を通じて、一人ひとりの意識とスキルが向上し、修正件数は昨年度より70件以上減少した。</p> <p>②昨年度につづき、新入生一人ひとりに対応したワンセット型防災備品を購入した。防災マニュアルを改訂した。5月に防災避難訓練・地域別集会、1月に災害図上訓練(DIG)を実施し、防災意識の向上に努めた。地域に関しては7月に行政・地域住民代表が来校し、防災についての意見交換会を実施した。8月の二宮総合防災訓練では地域住民にグラウンドの防災倉庫などを案内した。</p> <p>・ごみの分別回収を徹底し、減量に努めた。また職員研修を実施した。PTAの会合の際にはペットボトルのキャップの持参を呼びかけ、多く回収した。</p>	<p>①一定の成果は見られるものの、依然として最終段階での変更・差し替えが残っている点が問題である。中でも欠課時数の誤りが目立ったため、その管理方法について新たなお提案をしていく必要がある。</p> <p>②継続的に防災について対応を考える。ワンセット型防災備品は学年進行で整備され、来年度の新入生の購入により、全校生徒が持つことになる。DIG終了後のアンケートの集計結果では、実施について高評価であった。</p> <p>・今年度初めて実施した行政・地域住民代表との意見交換会では今後も継続していくことになった。ごみの分別回収の際には生徒美化委員のほか、交代で教員も立ち合い、その推進に努めている</p>	<p>①教職員のスキルが向上したことは評価する。今後とも教職員の働き方改革と合わせてスキルアップを推進してほしい。</p> <p>・研修の場合、ほとんどが「他人事」と捉えるため、職場のヒヤリハットを集めてフィードバックしたり、具体的な事例があれば本人の同意を得て資料としたり「自分事」ととらえられるよう工夫をする必要がある。</p> <p>②防災について意識づけが出来ている。今後も進化しながら継続して行ってほしい。</p> <p>・自助・共助・公助の考えに基づいた取り組みがなされており、高校生が地域防災において大きな役割を担うことを期待する。</p> <p>・学校、行政、地域住民代表との意見交換会を毎年開催し、広域避難場所としての問題点と対策を相互に認識する必要がある。</p>	<p>①時機に合わせた事故防止の呼びかけを行い、職員の意識付けを行いミスが減少している。</p> <p>②DIGは定着してきている。今後は参加者の確保を考えていきたい。</p> <p>・成績の入力については、今後も研修や二重チェック態勢で確実に減らしていく。</p> <p>・入試に関しては新しい制度になったため、さらなる採点の際の改善策を検討する。</p> <p>・本校が避難所になっている関係から、二宮町との協力体制を整え、地域住民との協力体制を整えていく。</p>	